

# 登録有形文化財登録 正法寺川（しょうほうじがわ）砂防施設

山形県天童市大字下荻野戸地内

## ■平成 17 年 7 月 12 日登録 19 施設

- ① 北沢第一号石堰堤（きたさわだいいちごういしえんてい）
- ② 北沢第一号の甲石堰堤（きたさわだいいちごうのこういしえんてい）
- ③ 北沢第二号石堰堤（きたさわだいにごういしえんてい）
- ④ 北沢第三号石堰堤（きたさわだいさんごういしえんてい）
- ⑤ 北沢第四号石堰堤（きたさわだいよんごういしえんてい）
- ⑥ 北沢第五号石堰堤（きたさわだいごごういしえんてい）
- ⑦ 北沢第六号石堰堤（きたさわだいろくごういしえんてい）
- ⑧ 北沢第七号石堰堤（きたさわだいななごういしえんてい）
- ⑨ 北沢第八号石堰堤（きたさわだいはちごういしえんてい）
- ⑩ 北沢第九号石堰堤（きたさわだいきゅうごういしえんてい）
- ⑪ 北沢第十号石堰堤（きたさわだいじゅうごういしえんてい）
- ⑫ 北沢第十二号石堰堤（きたさわだいじゅうにごういしえんてい）
- ⑬ 北沢第十三号石堰堤（きたさわだいじゅうさんごういしえんてい）
- ⑭ 北沢第十四号石堰堤（きたさわだいじゅうよんごういしえんてい）
- ⑮ 北沢第十五号石堰堤（きたさわだいじゅうごごういしえんてい）
- ⑯ 狸沢第一号石堰堤（たぬきさわだいいちごういしえんてい）
- ⑰ 狸沢第二号石堰堤（たぬきさわだいにごういしえんてい）
- ⑱ 狸沢第三号石堰堤（たぬきさわだいさんごういしえんてい）
- ⑲ 北沢鉄線蛇籠水制工（きたさわてっせんじゃかごすいせいこう）

## ■平成 17 年 11 月 10 日登録 10 施設

- ⑳ 南沢第五号石堰堤（みなみさわだいごごういしえんてい）
- ㉑ 南沢第六号石堰堤（みなみさわだいろくごういしえんてい）
- ㉒ 南沢第七号石堰堤（みなみさわだいななごういしえんてい）
- ㉓ 南沢第八号石堰堤（みなみさわだいはちごういしえんてい）
- ㉔ 南沢第九号の一石堰堤（みなみさわだいきゅうごうのいちいしえんてい）
- ㉕ 南沢第十二号石堰堤（みなみさわだいじゅうにごういしえんてい）
- ㉖ 南沢第十三号石堰堤（みなみさわだいじゅうさんごういしえんてい）
- ㉗ 南沢第十四号石堰堤（みなみさわだいじゅうよんごういしえんてい）
- ㉘ 北沢第十六号石堰堤（きたさわだいじゅうろくごういしえんてい）
- ㉙ 北沢下流鉄線蛇籠水制工（きたさわかりゅうてっせんじゃかごすいせいこう）

## 位置図



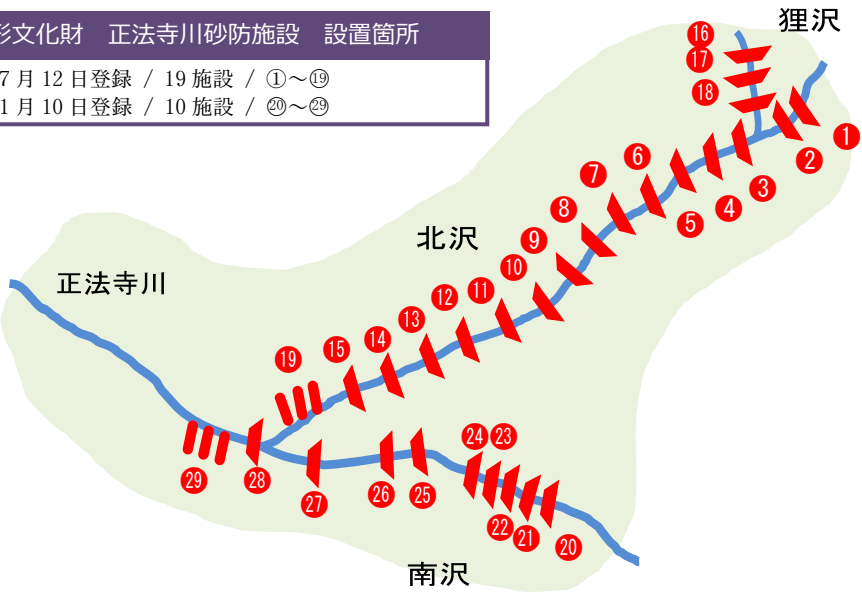
**天童市**

天童市は、山形県のほぼ中央部に位置します。  
 全国の将棋駒の約95%を生産する将棋駒の街です。また、山形県内でも有数の温泉街で県内観光の拠点としてにぎわっています。  
 そのほかにラ・フランスなどの果樹の生産も盛んな街です。



**登録有形文化財 正法寺川砂防施設 設置箇所**

平成17年 7月12日登録 / 19施設 / ①～⑱  
 平成17年 11月10日登録 / 10施設 / ㉔～㉓



## 正法寺川の概要

正法寺川は、雨呼山を水源とし、天童市南東部を流下する普通河川です。貫津川と合わさり倉津川へ合流し、天童市街地を貫流した後、最上川へ注ぎます。

流路延長、流域面積は、倉津川を含め16.2km、34.3km<sup>2</sup>です。古くから農業用水の水源として利用されており下流域にとっては生活を営む上で重要な河川です。しかし、いったん集中豪雨等に見舞われると随所で洪水氾濫などにより多くの災害をもたらしていました。

大正2年に発生した大洪水がきっかけとなり、本格的に砂防事業に着手されました。

## 正法寺川の砂防事業の歴史

正法寺川の砂防工事は、大正2年に発生した大洪水がきっかけとなり、大正11年から昭和2年までの6ヶ年で実施されました。第1期工事として北沢において大正11年から14年までの4年間、第2期工事は南沢において昭和元年から2年までの2年間で行われました。

北沢では、石堰堤21基（空積石堰堤17基、練積石堰堤4基）、床止石堰堤2基、石積護岸10箇所、鉄線蛇籠水制工32箇所などの砂防施設が設置されました。南沢では、石堰堤15基（空積石堰堤4基、練積石堰堤11基）、石積護岸6箇所などの設置により、下流域への土砂流出防止対策が行われました。

今回、登録有形文化財に登録された砂防施設には、切石を用いた空積、布積で築かれた類例が少ない構造形式が特徴的な砂防堰堤や亀甲形編目の鉄線蛇籠を用いた水制工などがあります。



当時の写真

## 正法寺川砂防施設の概要

登録有形文化財に登録された29施設は、大正11年から昭和2年にかけて築かれ、築造後90年以上経過していますが現在もその機能を発揮しております。

その構造は空積みや練積みによる石造りの堰堤や鉄線蛇籠を用いた鞍掛式の水制工で、全国的に初期の事例となっております。

代表的な施設は以下のとおりです。

### ① 北沢第一号石堰堤（きたさわだいいちごういしえんてい）



正法寺川（北沢）の最上流部に建設され、堤長14m、堤高4.6mで、上流側法勾配2分、下流側法勾配3分とした重力式石造堰堤です。

切石を用い空積、布積で築いた類例の少ない構造形式が特徴的な砂防堰堤です。

### ⑨ 北沢第八号石堰堤（きたさわだいはちごういしえんてい）



北沢第七号石堰堤の約45m下流に位置します。

堤長27m、堤高3.2m、上流側法勾配2分、下流側法勾配3分とした空積の重力式石造堰堤で、堤体右岸側に土堤張石を付けています。

水通しの角部で石を立てて積み方に变化を付け、堤体中央部と袖部の接点の強度を高めています。



### ⑬ 北沢第十五号石堰堤（きたさわだいじゅうごごういしえんてい）

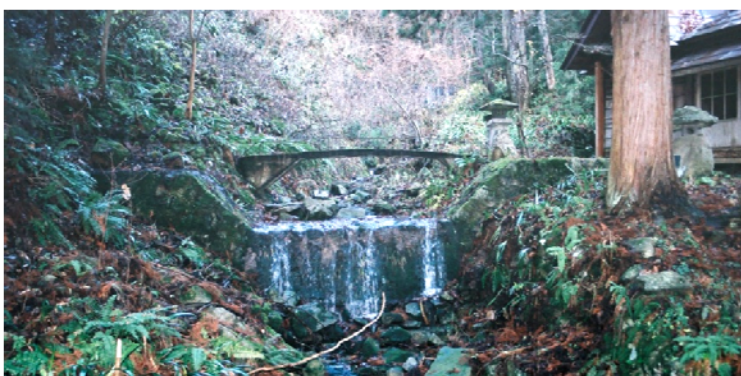


北沢第十四号石堰堤の約 170m 下流に位置します。

堤長 47m, 堤高 5.0m とした谷積の重力式練積堰堤で、上下流とも法勾配 2 分としています。

川幅にあわせて袖を長くとったのが特徴的で、大正期に建設された 正法寺川砂防堰堤の中では、規模が大きいものです。

### ⑭ 狸沢第三号石堰堤（たぬきさわだいさんごういしえんてい）



狸沢第二号石堰堤の約 35m 下流で狸沢の最下流に位置します。

堤長 11m, 堤高 3.2m、上流側法勾配 2 分、下流側法勾配 3 分とした谷積の重力式練積堰堤で、天端には五角形の石を用いています。

急勾配河川に密に配された 3 基の砂防堰堤のうちの 1 基で、全体で河床の安定を図ります。

### ⑰ 北沢鉄線蛇籠水制工（きたさわてっせんじゃかごすいせいこう）



北沢第十五号石堰堤の下流に位置し、流れとほぼ直角方向に配されています。

機械編みの亀甲形編目としたいわゆる川崎式鉄線蛇籠を 2 段重ねし、その上にほぼ等間隔で蛇籠を覆い被せた鞍掛水制工の一種です。

堅牢なつくりで屈撓性にも優れた土木構造物です。

### ⑳ 南沢第十二号石堰堤（みなみさわだいじゅうにごういしえんてい）



南沢第九号の一石堰堤の約 130m 下流に位置します。

堤長 26m, 堤高 3.0m 規模の下流側法勾配 3 分とした谷積の重力式練積堰堤です。

当堰堤から下流では水通し幅を広くとられています。